

「小麦アレルギー」



信陽接骨院

柔道整復師 山田 秀 人

【はじめに】

加水分解小麦含有石鹼（特定の石鹼）を使用したことによる小麦アレルギー。通常、小麦アレルギーでは、小麦を食べて運動した時のみにアレルギー症状が出る、いわゆる運動誘発性アレルギーが多くみられる。

しかし二〇〇九年頃から、二十〜六十歳代の女性に今までは少し異なる、小麦を食べると喉が腫れる、顔が痒くなるといった、これまでの症状とは少し違い、このような症状を持つ患者の共通点といえば特定の石鹼を使用しているということである。

加水分解小麦は水に溶けやすく高い保湿性があり、多くのシャンプーや石鹼などの製品に添加されているが、この特定の石鹼にはその含有量が多いため、アレルギー性が強いと思われる。

現在、この特定の石鹼は加水分解小麦を含有せず販売されている。

【患者】

三十歳代 女性 会社員

【症状】

二〇〇七年七月から二〇一一年十一月まで特定の石鹼を使用。

二〇〇九年に喉の腫れ、首の腫れの症状が出現し皮膚科を受診、小麦アレルギーの診断を受ける。

この時点では、加水分解小麦含有石鹼が関与しているということは分からなかった。

二〇一一年十一月の皮膚

科の受診で加水分解小麦含有石鹼使用での小麦アレルギーと診断を受ける。

皮膚科で、加水分解小麦の入っていない石鹼を使用し、小麦製品を摂取しないよう指導を受ける。

【検査】

心身条件反射療法（PCRT）による神経反射検査、言語神経反射検査を使用し、適合検査及び適合施術を行う。

精度を高めるため、神経反射検査はダブルチェックで行う。

【施術】

初回 二〇一二年七月二十日

来院前に菓子パンをひとつかじりして、首が赤くなつたと言われる。

- 手元にあるキット（小麦製品）があつたのでピスケットで検査を行う。
- (1)ピスケットを手に持ち筋力テスト（+）
- (2)ピスケットに関する経絡を検査（胃経）
- (3)ピスケットー胃経臓器反応点でPCRT施術を行う。

- (4)1を再検査（-）
- (5)ピスケットを手に持ち、督脈ー任脈適合検査（+）
- (6)五感を探る

身体感覚ー触覚ー不信感現在使用している石鹼に對しての不信感。

味覚ー食べ物ー仕事関係ー信念・義務感 弁当を自分でつくる際、健康に気使っているが、小麦の原料のないものを選択しないといけな

い。味覚ー食べ物ー家族ー好

奇心・戦い

いろんな料理をしたいが、小麦に苦労する。これらの感情が身体に影響していることを認識してもらいPCRT施術を行う。

- (7)5を再検査（-）

施術前にあつた首の赤みがなくなる。

二回目 七月二十四日（初回から四日後）
パンを食べても症状が出なくなつたと言われる。しかし、パン以外は食べていない。

- 現在使用している石鹼で検査を行う。
- (1)現在使用中の石鹼を手に持ち筋力テスト（-）
- 用意していた小麦粉を使って検査を行う。
- (1)小麦粉を手に持ち筋力テスト（+）
- (2)小麦粉に関する経絡を検査（胆経）
- (3)小麦粉ー胆経臓器反応点でPCRT施術を行う
- (4)1を再検査（-）
- (5)小麦粉を手に持ち、督脈ー任脈適合検査（-）
- スパゲッティ（強力粉）でも同様に検査を行う。
- (1)スパゲッティを手に持ち筋力テスト（+）
- (2)スパゲッティに関する経絡を検査（心経）
- (3)スパゲッティー心経臓器反応点でPCRT施術を行う
- (4)1を再検査（-）
- (5)スパゲッティを手に持ち、督脈ー任脈適合検査（-）

首の赤み、腫れの症状のイメージに對する反応（+）
身体感覚ー痛覚・触覚ー自虐

小麦製品を摂ると自分の身体を悪くしているのではないか。
意味記憶ー映像記憶
小麦製品を食べた時に出現した首の赤み、腫れを鏡で見つて記憶に残っている。

これらの感情、記憶が身体に影響していることを認識してもらいPCRT施術を行う。

三回目 七月三十日（初回から十日後）
パンを食べ続けているが症状は出ない。

●小麦製品の検査でビザ、ラーメンに反応するためにPCRT施術を行う。

反応しなくなつたものに対して、少量ずつ食べていただくよう伝える。

四回目 八月四日（初回から十五日後）
小麦製品で症状は全く出ていないとのこと。

検査でも反応はない。

症状が出現、もしくは不安な場合は早期に来院していただくことを伝え、本ケースにおける施術を一旦終了し、今後の経過を観察する。

【考察】

PCRTでは、身体及び物質を構造体としてとらえるのではなく、エネルギーとしてとらえることにより、量子力学的に身体と健康を考えると「肉体」「エネルギー」「波動」「振動」「周波数」「情報」という概念が符号し、エネルギーバランスが調和されていく時が健康であり、自然治癒力や免疫力が最大限に発揮されることを考える。

肉体内と外界との波長が合わなくなると症状が出現し、「肉体」と「物質」「情報」の波長を合わせることでエネルギーバランスが調和し、健康を回復し、症状が出現しなくなることを考え、波長を合わせる施術により改善が見込まれる。

ストレスによる脳・神経系の影響は非常に大きなウエイトを占め、エネルギーバランスの調和により、幅広い施術が可能である。